SOCIAL ACTY

一人ひとりが生き生きと生活できる社会の実現を目指しています。

まちづくり＆組織の活性化
ファシリテーション

◆ What's Social acty ? ◆

「一人ひとりがいきいきと生活すると集団や組織も
いきいきしてくる。
そして、社会全体もいきいきとしてくる。」
そんなことを願っています。
そのためには、一人ひとりが持っている能力が発揮できること。
それを引き出すお手伝いをしたいと考えています。
Facilitationは、引き出す、容易にする、という意味があります。
能力を引き出す、やる気を引き出す、成果を引き出す。
まちづくりも組織も社会も楽しくなりますね。
ご興味がある方はお気軽にお問い合わせください。

子ども会議　経営方針プラン会議

◆ 2019年 ふりかえり

2019年は、2018年の成果に上乗せするようなご依頼をいただきました。
雑誌などの論文掲載や、議員向けに対話の会を体験していただく機会は、昨年の出版を踏まえてのことでした。
ワークショップでは、市民（事業者も含めて）と行政の方々が協働してシステムと入れ物となるハードをつくっていくというテーマが増えてきました。
未知なる新しい領域ではありますが、とても意義深くやりがいのあるテーマに取り組ませていただいております。
また、対話を重視するワークショップや研修も増えてきました。
このような機会をいただけたことに感謝しております。

やりたいこと、広めていきたいことが実現に向けて進んでいくような一年でした。

2020年もさらに一歩進めて、そして、ひとつひとつと大切にして取り組んでまいります。

ビジョン会議　女性ボウサイ

子どもと大人が対等に話し合う場をファシリテート

- 子どもと大人が同じテーブルについて地域の未来について語り合う、そんな機会をたくさんいただきました。
- 子どもだけで考える、子ども条例と子ども条例の実現された未来の姿を新聞にしました。子どもならではのアイデアに驚きました。
- 地域の女性のボウサイ活動に加えていただいています。

SDGｓ＋ビジョン　みんなでつくる公園

被災地視察　DPファシリテート

商店街再生　社会実験

「再生」をキーワードに未来を語り、行動する

- 区のビジョンをＳＤＧｓ２０３０と連携して考える会議をしました。初めて見る方もいらっしゃいましたが、同じ方向を向いていることを共有しました。
- 公園をみんなでつくっていく、ゆくゆくは管理運営していくためのワークショップが増えてきました。
その中で、公園のルールを考える社会実験もしました。
- かつての勢いがなくなってしまった商店街。核となる店舗を実際に開店させようというワークショップがはじまりました。
みなさんの熱意をカタチにしていきます。

雑誌掲載　租税教室

Resarch and Dvelopment

- ２０１８年の西日本豪雨で被災した倉敷市真備地区へ視察に行きました。水に浸かった区画の中でも、修繕して住んでいる家と放置された家。災害の脅威と復興の難しさを痛感しました。
- ＤＰ（Deliverative Poll 討議型世論調査）のファシリテートをする機会をいただきました。今までの積み重ねが成果になったような気がしました。
- 雑誌に論文や記事を掲載していただく機会ができました。

ソーシャル・アクティ

HP　http://social-acty.com
TEL　0564-53-0370
MAIL　social-acty@m4.catvmics.ne.jp

株式会社 ソーシャル・アクティ
代表取締役　林 加代子